

令和4年度  
全国学力・学習状況調査  
結果及び分析



茅ヶ崎市教育委員会  
教育推進部学校教育指導課  
令和4年12月

## はじめに

令和4年4月に小学校6年生、中学校3年生を対象に実施した「全国学力・学習状況調査」の分析概要をまとめました。

各学校が児童・生徒の学習・生活の状況を踏まえながら、各学校における教育課程や学習指導の充実・改善、児童・生徒一人一人の学習改善や意欲的な学習態度の育成につなげるための指標として提示します。

特に、教科に関する調査では、平均正答率や全国との差異に目が行きがちですが、児童・生徒が問題に取り組む際に、どのようなことに戸惑い、つまづいたのかや、指導を工夫することで問題解決能力が向上するのではないかといったことについて目を向けることが、児童・生徒の学びの質を高めていく上で大切であると考えます。

そのために、「課題が見られた問題」等について、「解答類型」を掲載し、児童・生徒の思考の過程が見える形の分析としました。

また、各家庭でも、児童・生徒が取り組んでいる調査の内容や結果について、本報告書を通して共有していただけたら幸いです。

さらに、質問紙調査については、児童・生徒に対する学習意欲等に関する調査と、学校に対する指導方法等に関する調査を実施しております。これらの調査結果からは、児童・生徒の学習意欲が学習状況と密接に結びついている状況が分かりますので、学校、家庭、地域でも共有していただくことが、今後の児童・生徒の学力向上に結びつくものと考えます。

## 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 【調査結果の解釈等に関する留意事項】

本調査は、幅広く児童生徒の学力や学習状況等を把握することなどを目的として実施しているが、実施教科が特定の教科のみであることや必ずしも学習指導要領全体を網羅するものではないことなどから、本調査の結果については、児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部分であること、学校における教育活動の一側面に過ぎないことに留意することが必要である。

(令和4年度全国学力・学習状況調査に関する実施要領より抜粋、令和4年8月、文部科学省)

## 調査状況

### (1) 調査実施日

令和4年4月19日(火)

### (2) 調査内容

#### ① 教科に関する調査

##### ア 小学校

- ・ 国語(「知識」及び「活用」に関する問題)・・・14問
- ・ 算数(「知識」及び「活用」に関する問題)・・・16問
- ・ 理科(「知識」及び「活用」に関する問題)・・・17問

##### イ 中学校

- ・ 国語(「知識」及び「活用」に関する問題)・・・14問
- ・ 数学(「知識」及び「活用」に関する問題)・・・14問
- ・ 理科(「知識」及び「活用」に関する問題)・・・21問

#### ② 児童生徒質問紙調査

調査学年の児童・生徒を対象とした、学習意欲や学習方法、生活等に関する質問(小・中学校各69項目)

#### ③ 学校質問紙調査

各学校を対象とした、指導方法に関する取組等に関する質問(小学校82項目・中学校80項目)

新型コロナウイルス感染症の影響に関する質問(小・中学校各23項目)

### (3) 実施学校数

茅ヶ崎市立小学校19校、茅ヶ崎市立中学校13校 全32校

### (4) 実施学年

小学校6年生、中学校3年生

### (5) 調査数

① 小学校6年生:2,099人(国語 2099人・算数 2098人・理科 2097人)

② 中学校3年生:1,900人(国語 1895人・数学 1898人・理科 1900人)

\* 各教科の正答率や児童・生徒質問紙・学校質問紙調査における回答割合等に係る、各グラフや表に示す「割合(%)」については、それぞれ小数第2位を四捨五入していることから、100%にならないこともあります。

## 全国学力・学習状況調査 教科別平均正答率

	小学校正答率(%)			中学校正答率(%)		
	国語	算数	理科	国語	数学	理科
全国(公立)	65.6	63.1	63.3	69.0	51.4	49.3
神奈川県(公立)	65	64	63	69	53	50
<b>茅ヶ崎市</b>	<b>62</b>	<b>62</b>	<b>62</b>	<b>69</b>	<b>53</b>	<b>50</b>
全国との差	-3.6	-1.1	-1.3	±0	1.6	0.7

\*神奈川県及び茅ヶ崎市の各教科の平均正答率は、文部科学省より小数第1位を四捨五入した整数値で提供されています。

### 【総括】

#### 【小学校】

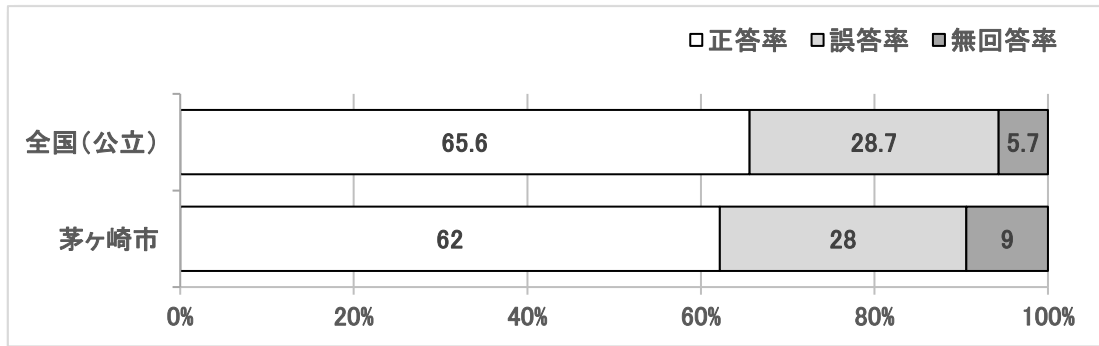
平均正答率について、国語、算数、理科ともに全国平均と同程度である。

#### 【中学校】

平均正答率について、国語、数学、理科ともに全国平均と同程度である。

# 小学校国語

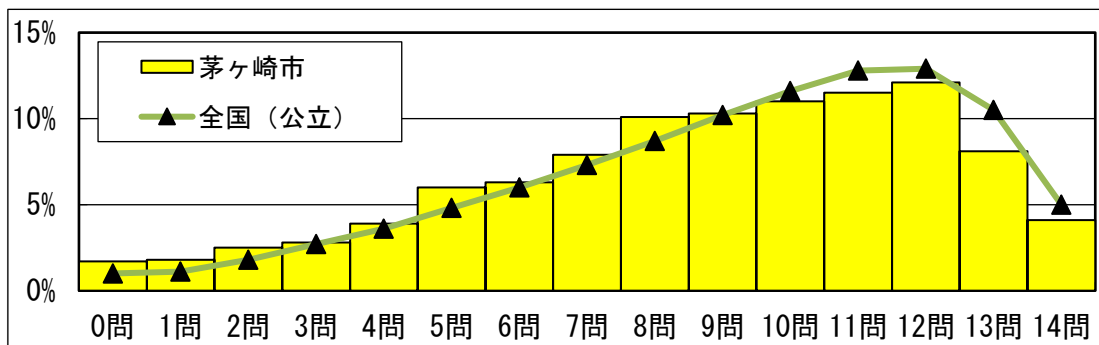
## (1) 正答率等比較



(令和4年度小学校国語正答率等比較)

- ◆ 全国の平均正答率が65.6%であるのに対し、茅ヶ崎市は62%で、全国と同程度である。

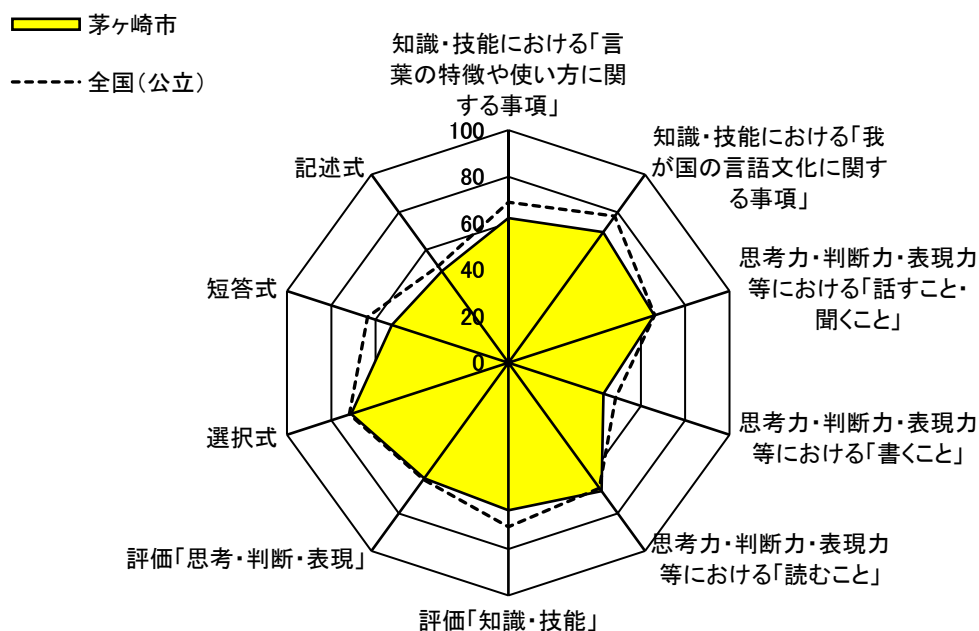
## (2) 正答数分布



(令和4年度小学校国語正答数分布グラフ)

- ◆ 正答数の分布は、全国と比較して、0～8問正解の割合が高く、10～14問正解の割合が低い。
- ◆ 茅ヶ崎市は、全国と同様に12問正解の児童の割合が最も高い。
- ◆ 正答率40%以下(0～5問正解)の児童の割合は、18.7%(全国15.0%)である。
- ◆ 正答率80%以上(12～14問正解)の児童の割合は、24.3%(全国28.4%)である。

### (3) 領域・観点・問題形式別平均正答率



(令和4年度小学校国語領域・観点・問題形式別レーダーチャート)

- ◆ 知識・技能における「言葉の特徴や使い方に関する事項」の平均正答率は、62.2%(全国69.0%)であり、**全国平均を6.8ポイント下回っている。**
- ◆ 知識・技能における「我が国の言語文化に関する事項」の平均正答率は、69.5%(全国77.9%)であり、**全国平均を8.4ポイント下回っている。**
- ◆ 思考力、判断力、表現力等における「書くこと」の平均正答率は、43.0%(全国48.5%)であり、**全国平均を5.5ポイント下回っている。**
- ◆ 短答式の問題である【問3 三 ア～ウ】の平均正答率は、52.6%(全国63.6%)であり、改善が求められる。

### (4) 特に課題が見られた問題

#### 【ピックアップポイント】

正答率が低く、全国との差が大きかったもの。

#### 【出題の趣旨】

学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う。

#### 【問題 3 三(イ)】

次の \_\_\_\_\_ 部イを漢字でていねいに書きましょう。

そして、当番の日に水やりをするだけで、南さんのように、みんなのために新たな活動を提案できなかったことを イ はんせい しました。

【平均正答率(%)】

正答	茅ヶ崎市	全国(公立)
下記参照	46.5	58.7

- ◆ 全国平均を12.2ポイント下回っている。

【解答類型及び茅ヶ崎市の解答の割合(%)】

類型	正答	解答類型	割合(%)	
			茅ヶ崎市	全国(公立)
1	◎	「反省」と解答しているもの	46.5	58.7
2		「反」と解答しているが、「省」と解答していないもの	21.3	20.7
3		「反」と解答していないが、「省」と解答しているもの	2.1	1.7
99		上記以外	10.7	8.8
0		無解答	19.3	10.2

- ◆ 解答類型2については、「省」を同じ読み方をする「成」「生」「正」「性」と解答している児童が見られた。
- ◆ 茅ヶ崎市においては、**無解答の割合が19.3%**(全国10.2%)であり、**全国平均を9.1ポイント上回っている。**
- ◆ 学習指導に当たっては、次のことに留意することが大切である。

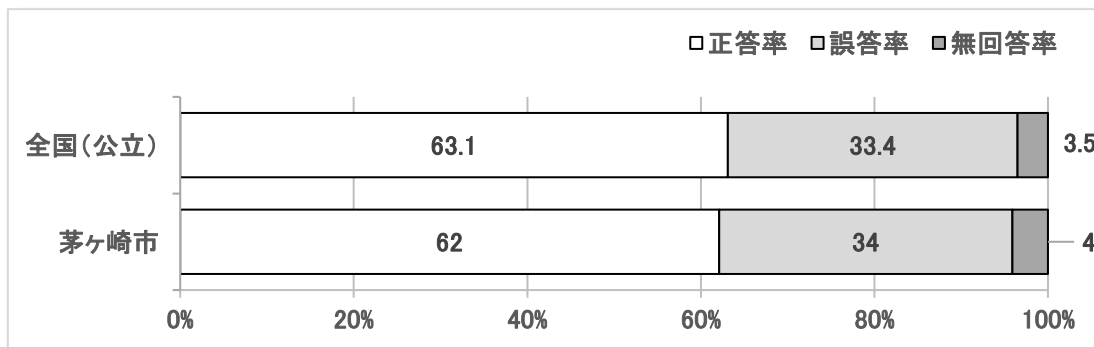
文や文章の中で使おうとする習慣を身に付けるようにするとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うように指導することが重要である。

そのためには、同じ漢字を繰り返し練習することにとどまらず、学習において感想や振り返りを書く場面や、日常生活において日記を書く場面などで漢字を使うことを意識した取り組みが必要である。その際、同じ部分をもつ漢字や同じ読み方をする漢字に注意して書くことを指導することが大切である。

(令和4年度全国学力・学習状況調査報告書より一部抜粋、令和4年8月、文部科学省)

## 小学校算数

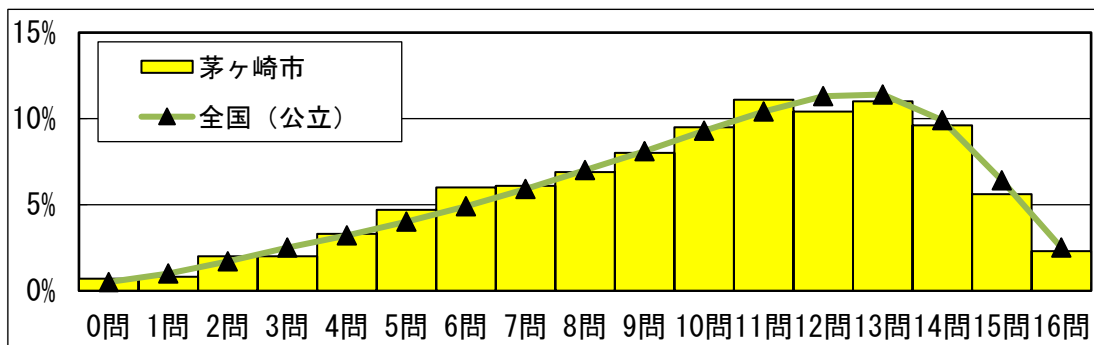
### (1) 正答率等比較



(令和4年度小学校算数正答率等比較)

- ◆ 全国の平均正答率が、63.1%であるのに対し、茅ヶ崎市は62%で、全国と同程度である。

### (2) 正答数分布

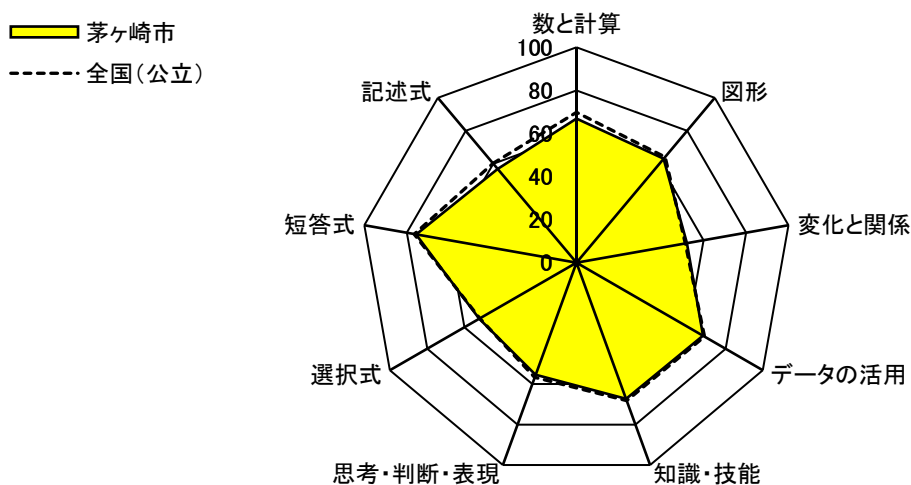


(令和4年度小学校算数正答数分布グラフ)

- ◆ 正答数の分布は、全国と同様に、正答数の多い側に集中している。
- ◆ 茅ヶ崎市は、11問正解の児童の割合が最も多いが、全国は、13問正解の児童の割合が最も高い。
- ◆ 正答率40%以下(0~6問正解)の児童の割合は、19.5%(全国17.8%)である。
- ◆ 正答率80%以上(13~16問正解)の児童の割合は、28.5%(全国30.2%)である。



### (3) 領域・観点・問題形式別平均正答率



(令和4年度小学校算数領域・観点・問題形式別レーダーチャート)

- ◆ 「数と計算」の平均正答率は66.9%(全国69.8%)、であり、**全国平均を2.9ポイント下回っている。**
- ◆ 記述式の平均正答率は56.9%(全国60.2%)であり、改善が求められる。

### (4) 特に課題が見られた問題

#### 【ピックアップポイント】

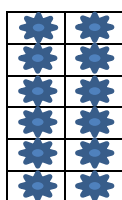
全国との差が最も大きかったもの。

#### 【出題の趣旨】

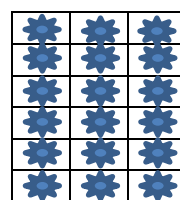
示された場面を解釈し、除法で求めることができる理由を記述できる。

【問題 1】 カップケーキが、下の図のように売られています。1箱14個入りで1050円のAセットと、1個21個入りで1470円のBセットがあります。  
あいりさんたちは、AセットとBセットのカップケーキを同じ値段にそろえたとき、どちらのほうが安くなるかについて考えています。

Aセット  
14個入り  
1050円



Bセット  
21個入り  
1470円



(3)次に、くるみさんは、カップケーキの値段を7個にそろえて考えることにしました。

#### 【くるみさんの考え】

Aセットのカップケーキ7個分の値段  $1050 \div 2 = 525$  525円  
 Bセットのカップケーキ7個分の値段  $1470 \div 3 = 490$  490円  
 カップケーキ7個分の値段は、Bセットのほうが安くなります。

あいり

Aセットのカップケーキ7個分の値段を、 $1050 \div 2$ で求めることができるのはどうしてですか。


ゆうとさんは、Aセットのカップケーキ7個分の値段を、【くるみさんの考え】の中の「 $1050 \div 2$ 」で求めることができるわけについて、下のように説明しました。

**【ゆうとさんの説明】**

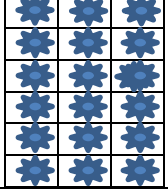
1列のカップケーキが7個ずつ2列あります。2列の値段が1050なので、1050を2等分すれば1列に並んでいるカップケーキ7個分の値段で求めることができます。

Bセットのカップケーキ7個分の値段を、【くるみさんの考え】の中の「 $1470 \div 3$ 」で求めることができるわけについて考えます。そのわけを【ゆうとさんの説明】と同じように、言葉と数を使って書きましょう。

**Aセット**  
14個入り  
1050円



**Bセット**  
21個入り  
1470円



**【平均正答率(%)】**

正答	茅ヶ崎市	全国(公立)
下記参照	68.7	76.0

◆ 全国平均を7.3ポイント下回っている。

**【解答類型及び解答の割合(%)】**

(正当の条件) 次の①、②のすべてを書いている。

- ① カップケーキが3列あることを表す言葉と数
- ② 1470円を3等分することを表す言葉と数

類型	正答	解答類型	割合(%)	
			茅ヶ崎市	全国(公立)
1	◎	①、②のすべてを書いている	68.7	76.0
2		①を書いているもの	11.9	8.4
3		②を書いているもの	2.5	2.6
99		上記以外	11.0	7.7
0		無解答	5.9	5.2

「◎」…解答として求める条件を全て満たしている正答

◆ 解答類型2の具体的な例としては、以下のようなものがある。

(例) 1列のカップケーキが7個ずつ3列あります。3列の値段が1470円なので、1470円を7等分すればカップケーキ7個分の値段を求めることができます。

このように解答した児童は、示された1列のカップケーキの個数である7個を、誤って列の数と捉え記述していると考えられる。

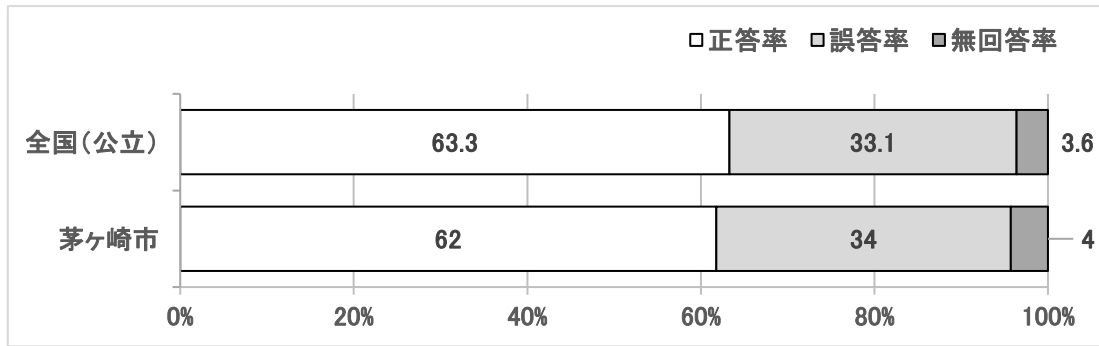
◆ 学習指導に当たっては、次のことに留意することが大切である。

日常生活の問題を解決するために、一つ分の大きさ、幾つ分、幾つ分かに当たる大きさの関係を捉え、式に表したり、式の意味を説明したりすることができるようにすることが重要である。

(令和4年度全国学力・学習状況調査報告書より抜粋、令和4年8月、文部科学省)

# 小学校理科

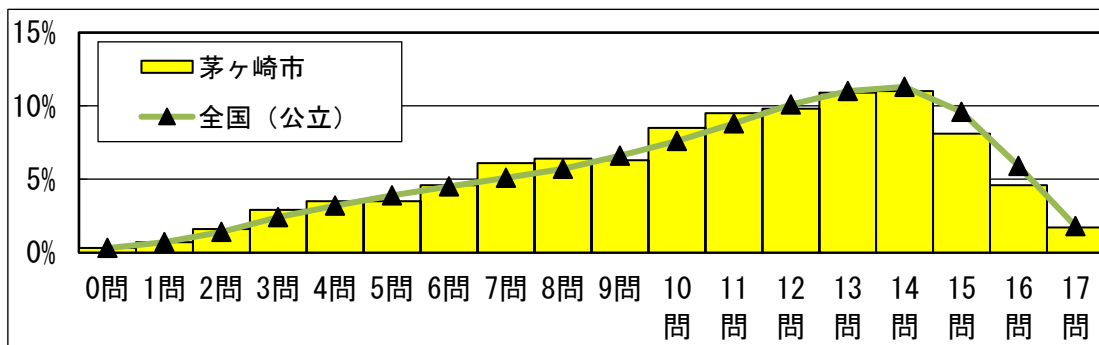
## (1) 正答率等比較



(令和4年度小学校理科正答率等比較)

- ◆ 全国の平均正答率が、63.3%であるのに対し、茅ヶ崎市は62%で、全国と同程度である。

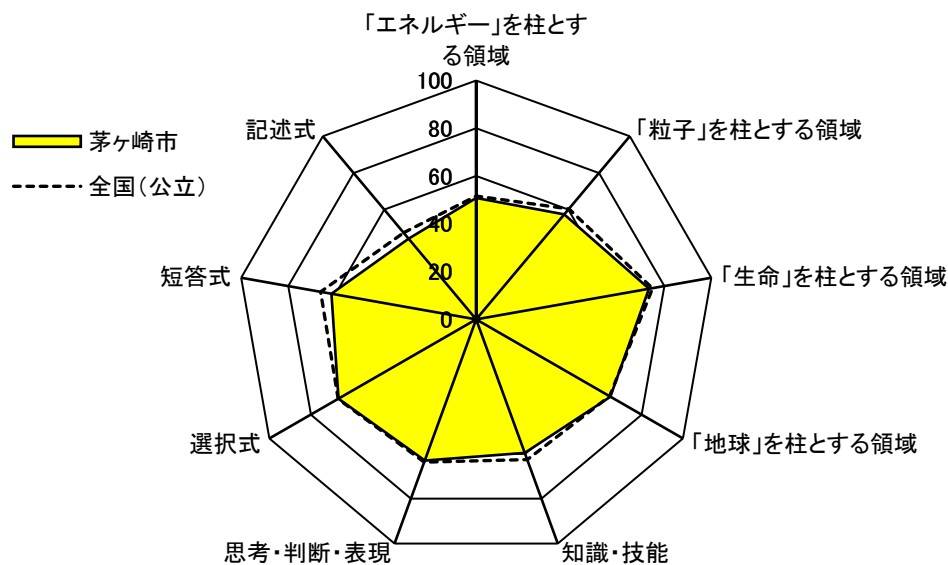
## (2) 正答数分布



(令和4年度小学校国語正答数分布グラフ)

- ◆ 正答数の分布は、全国と比較して、0～11問正解の割合が高く、12～17問正解の割合が低い。
- ◆ 全国、茅ヶ崎市ともに、14問正解の生徒の割合が最も高い。
- ◆ 正答率40%以下(0～6問正解)の生徒の割合は、17.1%(全国16.4%)である。
- ◆ 正答率80%以上(14～17問正解)の生徒の割合は、25.4%(全国28.6%)である。

### (3) 領域・観点・問題形式別平均正答率



(令和4年度小学校理科領域・観点・問題形式別レーダーチャート)

- ◆ 「粒子」を柱とする領域の平均正答率は、57.4%(全国60.4%)であり、全国平均を3ポイント下回っている。
- ◆ 知識・技能の平均正答率は、59.6%(全国62.5%)であり、全国平均を2.9ポイント下回っている。
- ◆ 短答式の平均正答率は61.6%(全国66.2%)であり、全国平均を4.6ポイント下回っている。

### (4) 特に課題が見られた問題

#### 【ピックアップポイント】

全国との差が大きかったもの。

#### 【出題の趣旨】

メスシリンダーという器具を理解し、メスシリンダーの正しい扱い方を身に付けているかどうかを見る。

#### 【問題 2 (1)】

たろうさんは、実験で使用する砂糖水と食塩水をつくるため、水 50mL を右のような器具を使ってはかりとることにしました。

たろうさんが使った器具の名前を書きましょう。



【平均正答率(%)】

正答	茅ヶ崎市	全国(公立)
下記参照	52.7	67.8

◆ 全国平均を15.1ポイント下回っている。

【解答類型及び解答の割合(%)】

類型	正答	解答類型	割合(%)	
			茅ヶ崎市	全国(公立)
1	◎	メスシリンダー と解答しているもの	52.7	67.8
2		ビーカー と解答しているもの	6.3	4.5
3		計量カップ と解答しているもの	0.4	0.3
4		試験管 と解答しているもの	10.1	5.5
5		フラスコ と解答しているもの	1.0	0.9
99		上記以外	14.5	11.2
0		無解答	14.9	9.8

「◎」…解答として求める条件を全て満たしている正答

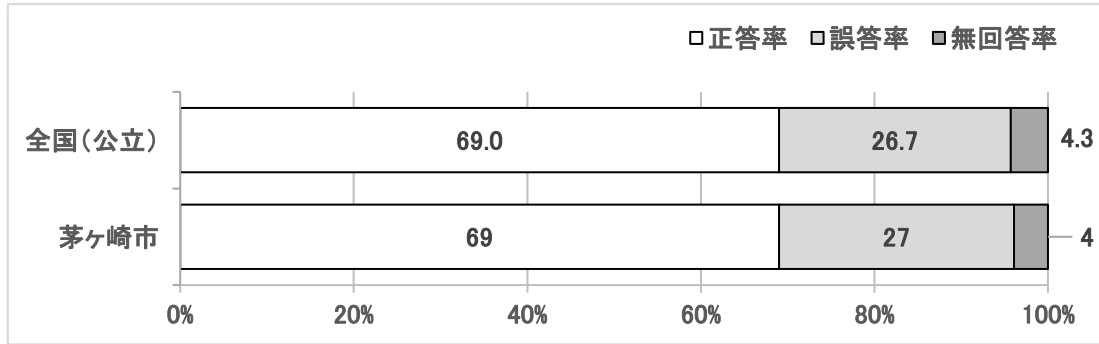
- ◆ 茅ヶ崎市においては、**解答類型2～5のように間違った名称を解答した割合が32.3%**(全国22.4%)であり、**全国平均を9.9ポイント上回っている。**
- ◆ 茅ヶ崎市においては、**無解答の割合が14.9%**(全国9.8%)であり、**全国平均を5.1ポイント上回っている。**

解答類型2～5のように、器具の名称を正しく理解できていないこと背景としては、使用する機会が少ない器具について操作を体験する場面を一人一人に設けられていないことや、目的に応じた器具を選択することの重要性について十分実感できないことが考えられる。

(令和4年度全国学力・学習状況調査報告書より抜粋、令和4年8月、文部科学省)

# 中学校国語

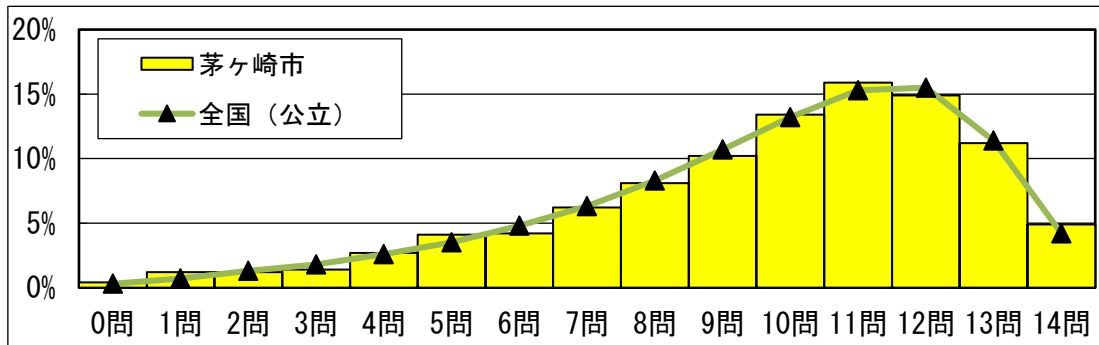
## (1) 正答率等比較



(令和4年度中学校国語正答率等比較)

- ◆ 全国の平均正答率が、69.0%であるのに対し、茅ヶ崎市も69%で、全国と同程度である。

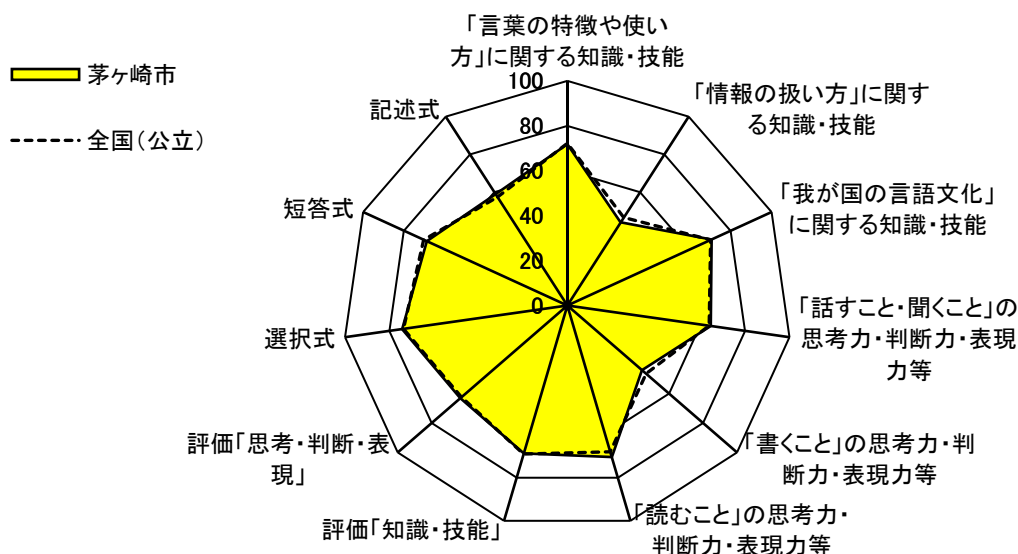
## (2) 正答数分布



(令和4年度中学校国語正答数分布グラフ)

- ◆ 正答数の分布は、正答数の多い側に集中している。
- ◆ 茅ヶ崎市は、11問正解の生徒の割合が最も多いが、全国は、12問正解の生徒の割合が最も高い。
- ◆ 正答率40%以下(0~5問正解)の生徒の割合は、11.0%(全国10.2%)である。
- ◆ 正答率80%以上(12~14問正解)の生徒の割合は、31.0%(全国31.1%)である。

### (3) 領域・観点・問題形式別平均正答率



(令和4年度中学校国語領域・観点・問題形式別レーダーチャート)

- ◆ 全ての領域等において、全国と同程度となっている。

### (4) 特に課題が見られた問題

#### 【ピックアップポイント】

全国との差が大きかったもの。

#### 【出題の趣旨】

聞き手の興味・関心などを考慮して、表現を工夫することができるかどうかをみる。

【問題 1】 川口さんは、国語の時間に最近気になったことについてスピーチをする学習に取り組んでいます。川口さんは、動画に自分のスピーチを記録し、それを田中さんに見せて助言をもらっています。次の【川口さんのスピーチ】と【二人の会話の一部】を読んで、あとの問いに答えなさい。

#### 【川口さんのスピーチ】

最近、ふだんの生活がこれまでとは違うものになってきていると感じます。その変化は、…(以下略)

#### 【二人の会話の一部】

田中 ここで動画を止めてもらえますか。「最近、ふだんの生活がこれまでとは違うものになってきていると感じます。」という部分は、聞き手を引き付けるために、呼びかけたり問いかけたりする表現にしてみてもうどうでしょうか。「やりとりをスムーズに行いにくい」という部分は、私も感じたことがあり、…(以下略)

- 一 川口さんは、【二人の会話の一部】の \_\_\_\_\_線部①「呼びかけたり問いかけたりする表現にしてみてもうどうでしょうか。」という助言を受け、「最近、ふだんの生活がこれまでとは違うものになってきていると感じます。」という部分に言葉を加えて直すことにしました。あなたならどのように直しますか。実際に話すように書きなさい。

【平均正答率(%)】

正答	茅ヶ崎市	全国(公立)
下記参照	71.3	74.7

【正答の条件】

次の条件を満たして解答している。

- ① 「最近、ふだんの生活がこれまでとは違うものになってきていると感じます。」という部分について、どのような言葉を加えて直すと呼びかけたり問いかけたりする表現になるかわかるように書いている。
- ② 実際に話すように書いている。

【解答類型及び解答の割合(%)】

	正答	解答類型	割合(%)	
			茅ヶ崎市	全国(公立)
1	◎	条件①、②を満たして解答しているもの	71.3	74.7
2		条件①を満たし、条件②を満たさないで解答しているもの	0.1	0.2
3		条件②を満たし、条件①を満たさないで解答しているもの	24.3	19.6
99		上記以外	1.4	1.7
0		無解答	2.8	3.8

「◎」…解答として求める条件を全て満たしている正答

- ◆ 解答類型1について、具体的な例としては、以下のようなものがある。

(例) 皆さん、最近、ふだんの生活がこれまでとは違うものになってきていると感じませんか。

このように解答した生徒は、聞き手の興味・関心などを考慮して、表現を工夫することができている。

- ◆ 解答類型3について、具体的な例としては、以下のようなものがある。

(例) 皆さんの中で、最近、ふだんの生活がこれまでとは違うものになってきていると感じたことのある人もいます。

このように解答した生徒は、話し手の伝えようとしている内容を踏まえることはできているが、どのような言葉を加えて直すと、呼びかけたり問いかけたりする表現になるかについて考えることができていない。



- ◆ 学習指導に当たっては、次のことに留意することが大切である。

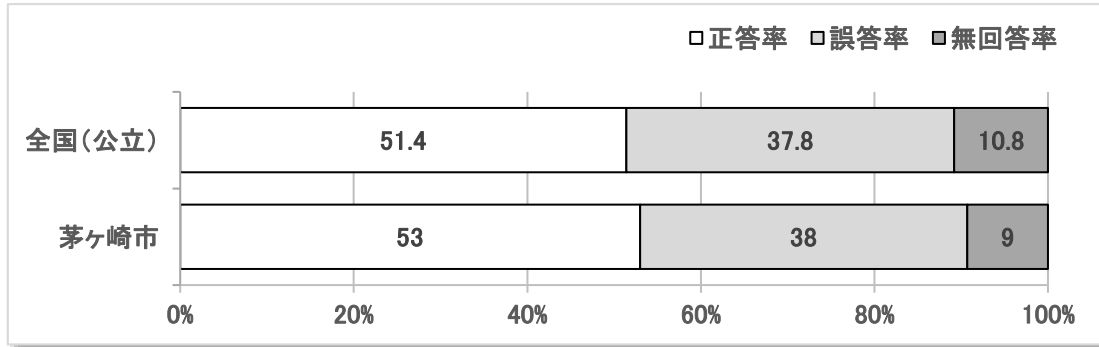
自分の考えを話す際には、場の状況や聞き手の興味・関心、情報量などを考慮しながら、聞き手に応じた語句を選択したり、呼びかけや問いかけをしたりするなどして、相手に分かりやすく伝わるように表現を工夫することが大切である。

例えば、複数のスピーチを比較し、それぞれの話し方の工夫について確めるなどの学習活動が考えられる。その際、ペアやグループでそれぞれのスピーチを比べたり、他学年のスピーチの動画を視聴したりして、分かりやすく伝えるための工夫について考えるように指導することも重要である。

(令和4年度全国学力・学習状況調査報告書より抜粋、令和4年8月、文部科学省)

# 中学校数学

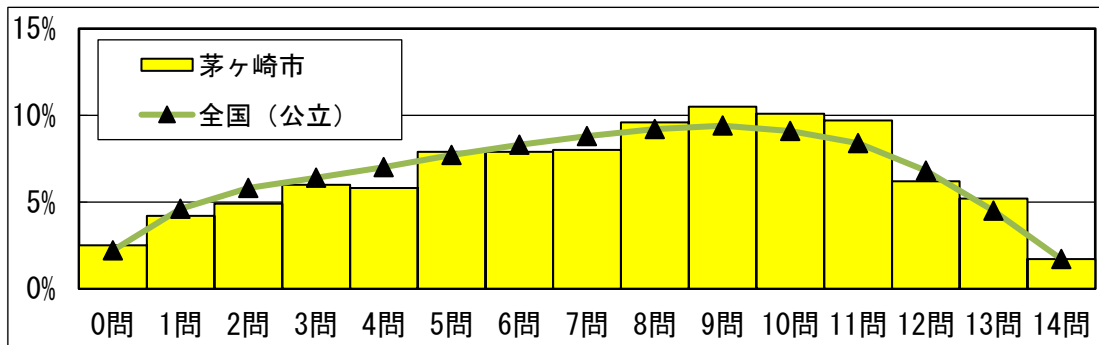
## (1) 正答率等比較



(令和4年度中学校数学正答率等比較)

- ◆ 全国の平均正答率が、51.4%であるのに対し、茅ヶ崎市は53%で、全国と同程度である。

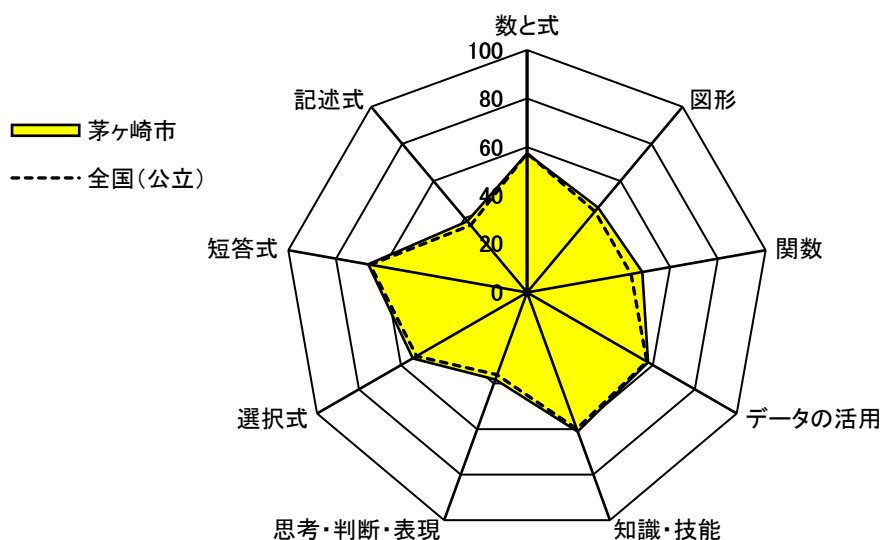
## (2) 正答数分布



(令和3年度中学校数学正答数分布グラフ)

- ◆ 正答数の分布は、全国と比較して、1～4問正解の割合が低く、8～11問正解の割合が高い。
- ◆ 全国、茅ヶ崎市ともに、9問正解の生徒の割合が最も高い。
- ◆ 正答率40%以下(0～5問正解)の生徒の割合は、31.3%(全国33.7%)である。
- ◆ 正答率80%以上(12～14問正解)の生徒の割合は、13.1%(全国13.0%)である。

### (3) 領域・観点・問題形式別平均正答率



(令和4年度中学校算数領域・観点・問題形式別レーダーチャート)

- ◆ 全ての領域等において、全国とほぼ同程度となっているが、特に関数の領域である問4の平均正答率は44.7%であり、全国平均37.9%を6.8ポイント上回っている。
- ◆ 記述式の問題の中で、問9(2)の平均正答率は14.8%(全国12.5%)と全国平均を上回っているが、改善が求められる。

### (4) 特に課題が見られた問題

#### 【ピックアップポイント】

全国との差が大きかったもの。

#### 【出題の趣旨】

自然数を素数の積で表すことができる。

【問題 1】 42を素因数分解しなさい。

#### 【平均正答率(%)】

正答	茅ヶ崎市	全国(公立)
次頁参照	46.2	52.2

【解答類型及び茅ヶ崎市の解答の割合(%)】

	正 答	解答類型(かけ算の順序は不問)	割合(%)	
			茅ヶ崎市	全国(公立)
1	◎	$2 \times 3 \times 7$ と解答しているもの	46.2	52.2
2		$2 \times 21$ と解答しているもの	0.2	0.2
3		$3 \times 14$ と解答しているもの	0.1	0.1
4		$6 \times 7$ と解答しているもの	1.4	1.0
5		因数に1を含んでいるもの	1.0	1.1
6		42をいくつかの数の和の式で表し解答したもの	0.3	0.2
99		上記以外の解答	38.3	33.7
0		無回答	12.5	11.5

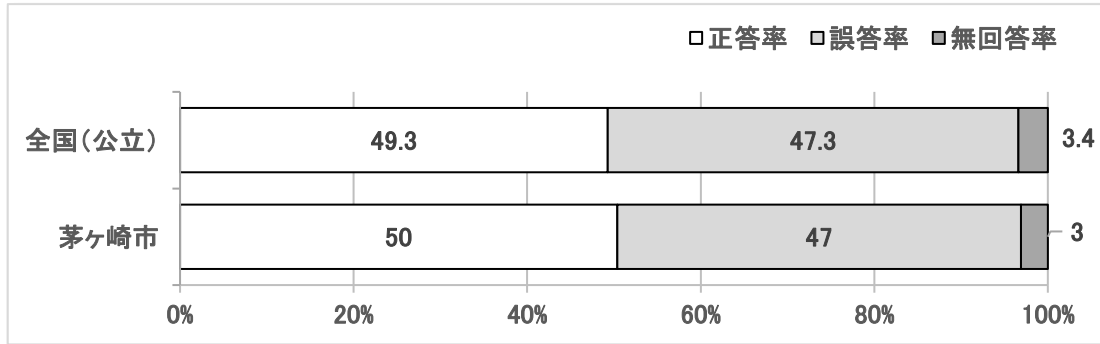
- ◆ 解答類型 99 の中には、「2、3、7」という解答が見られた。これは、42の素因数を記述しているが、それらを積で表すといった素因数分解の意味を理解していないためと考えられる。
- ◆ 学習指導に当たっては、次のことに留意することが大切である。

整数の性質について理解を深める場面において、整数を様々な視点からとらえることができるようにするために、自然数を素数の積で表すことが大切である。本問を使って授業を行う際には、自然数42をその約数の積に表す活動を通して、表現された約数の積の中に素数の積があることを調べたり、素数の意味を確認したりする場面を設定することが考えられる。

(令和4年度全国学力・学習状況調査報告書より抜粋、令和4年8月、文部科学省)

# 中学校理科

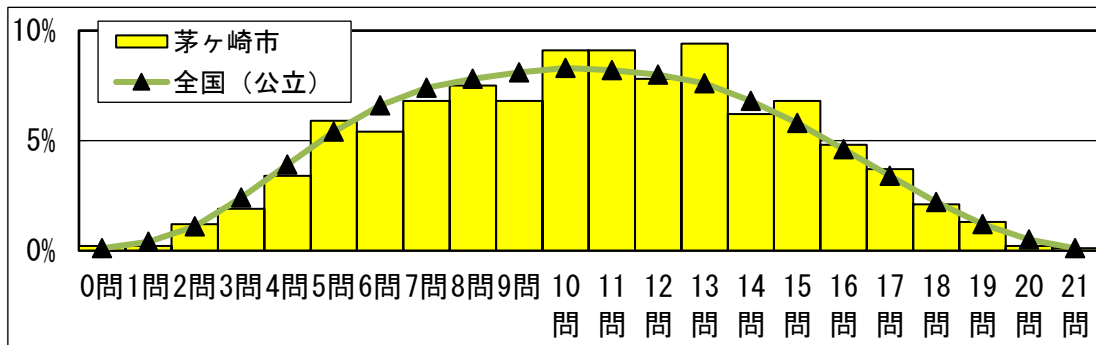
## (1) 正答率等比較



(令和4年度中学校理科正答率等比較)

- ◆ 全国の平均正答率が、49.3%であるのに対し、茅ヶ崎市は50%で、全国と同程度である。

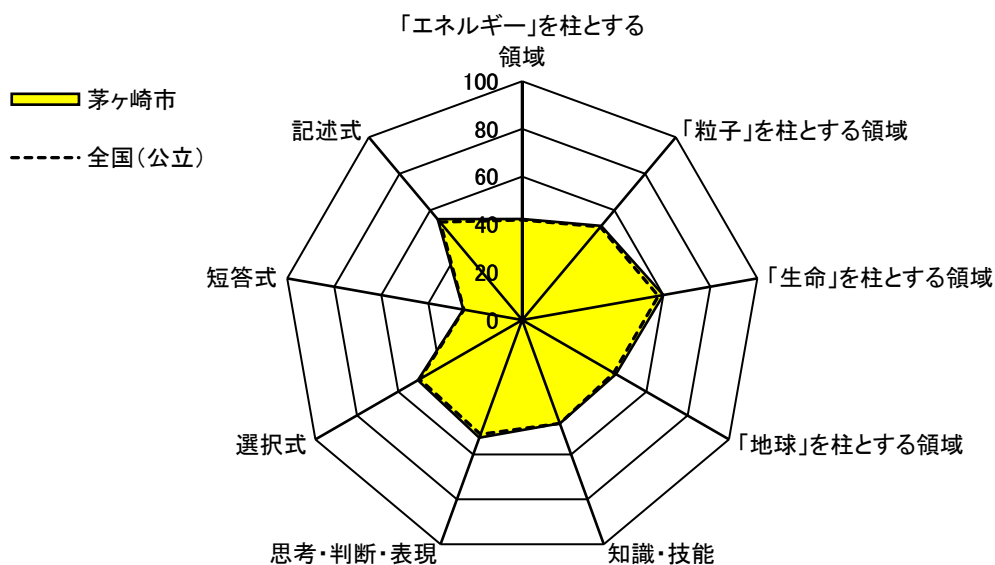
## (2) 正答数分布



(令和4年度中学校理科正答数分布グラフ)

- ◆ 茅ヶ崎市は、13問正解の生徒の割合が最も多いが、全国は、10問正解の生徒の割合が最も高い。
- ◆ 正答率40%以下(0~8問正解)の生徒の割合は、32.5%(全国35.1%)である。
- ◆ 正答率80%以上(17~21問正解)の生徒の割合は、茅ヶ崎市・全国ともに7.4%である。

### (3) 領域・観点・問題形式別平均正答率



(令和4年度中学校理科領域・観点・問題形式別レーダーチャート)

- ◆ 全ての領域等において、全国と同程度となっている。

### (4) 特に課題が見られた問題

#### 【ピックアップポイント】

全国との差が大きかったもの。

#### 【出題の趣旨】

玄武岩の露頭で化石が観察できるかを問うことで、岩石に関する知識及び技能を活用できるかどうかをみる。

【問題 6】 青木さんと赤井さんは、博物館の観察会に参加して、大地の成り立ちと変化について科学的に探究しました。(1)から(3)の各問いに答えなさい。

化石が観察できる露頭かを考える場面 \*ルートマップ省略

赤井さん:ルートマップ上にたくさんの露頭がありますね。

青木さん:A地点の露頭では、化石が観察できますか。

学芸員 :A地点には玄武岩が分布しています。化石が観察できるか考えましょう。

青木さん:玄武岩は、だから、化石は。

(1) だから、化石はに当てはまる適切なものを、下のア、イの中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

X ア 火成岩                      イ 堆積岩

Y ア 観察できます              イ 観察できません

【平均正答率(%)】

正答	茅ヶ崎市	全国(公立)
下記参照	43.8	48.0

【解答類型及び茅ヶ崎市の解答の割合(%)】

類型	正答	解答類型		割合(%)	
		X	Y	茅ヶ崎市	全国(公立)
1	◎	アと解答しているもの	イと解答しているもの	43.8	48.0
2		アと解答しているもの	アと解答しているもの	13.1	16.1
3		イと解答しているもの	アと解答しているもの	35.8	29.5
4		イと解答しているもの	イと解答しているもの	6.6	6.0
99		上記以外の解答		0.2	0.1
0		無回答		0.4	0.3

- ◆ 茅ヶ崎市の平均正答率は、全国平均より4.2ポイント下回り、解答類型3は全国平均より6.3ポイント高い。
- ◆ 解答類型2は、玄武岩が火成岩であるという知識は習得しているが、その生成過程を理解できていないためと考えられる。
- ◆ 解答類型3は、玄武岩が火成岩であるという知識が身に付いていないためと考えられる。
- ◆ 学習指導に当たっては、次のことに留意することが大切である。

身に付けた岩石に関する知識及び技能を活用して、化石が含まれる可能性の有無を判断する場面を設定することが考えられる。その際、岩石を観察して、その組織から火成岩と堆積岩に分類し、化石が含まれる可能性を考えるようにすることも重要である。

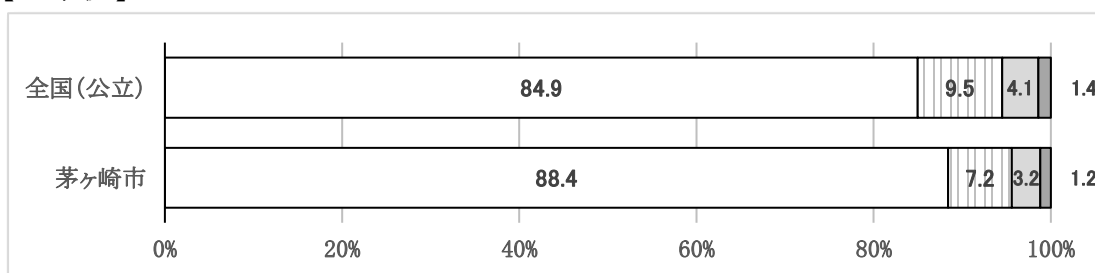
(令和4年度全国学力・学習状況調査報告書より抜粋、令和4年8月、文部科学省)

# 児童生徒質問紙・学校質問紙調査から

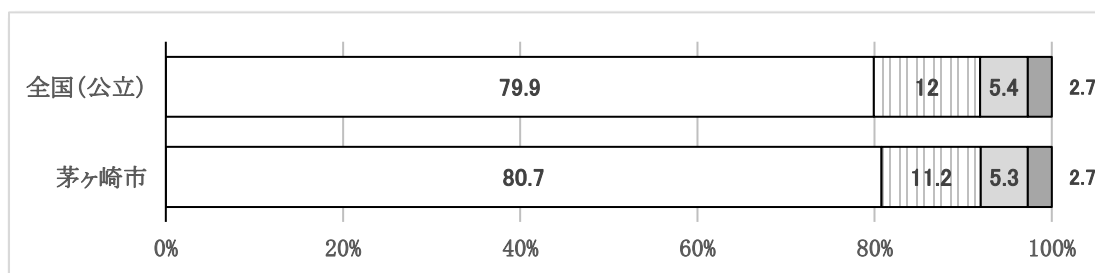
## 基本的な生活習慣に関する状況

(1) 【児童生徒質問紙】「朝食を毎日食べていますか」

【小学校】



【中学校】



□ している    ▨ どちらかといえば、している    ▩ あまりしていません    ■ 全くしていません

◆ 肯定的に回答した割合は、児童・生徒ともに9割を超えている。

【本市における児童・生徒の朝食喫食率と平均正答率との相関】

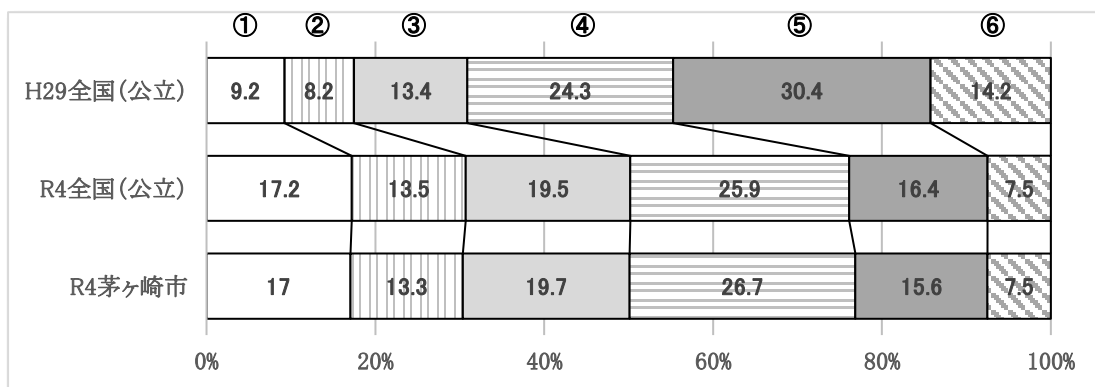
朝食を毎日食べていますか	児童数の割合 (%)	平均正答率 (%)			生徒数の割合 (%)	平均正答率 (%)		
		国語	算数	理科		国語	数学	理科
1 している	88.4	63.6	63.2	62.9	80.7	70.3	55.3	51.6
2 どちらかといえば、している	7.2	55.7	57.2	56.2	11.2	64.6	46.9	46.6
3 あまりしていません	3.2	47.7	48.1	49.5	5.3	60.9	40.0	42.5
4 全くしていません	1.2	45.6	49.3	47.3	2.6	63.9	38.7	45.4
5 その他/無回答	0.0	—	—	—	0.1	—	—	—

◆ 肯定的に回答した児童・生徒の方が、各教科の平均正答率が高い傾向が見られる。

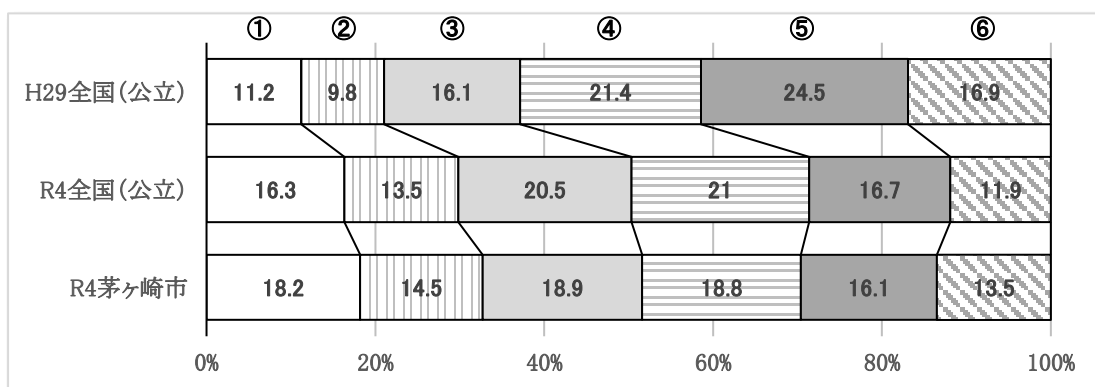


(2) 【児童生徒質問紙】「普段(月曜日から金曜日), 1日当たりどれくらいの時間, テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をしますか」

【小学校】



【中学校】

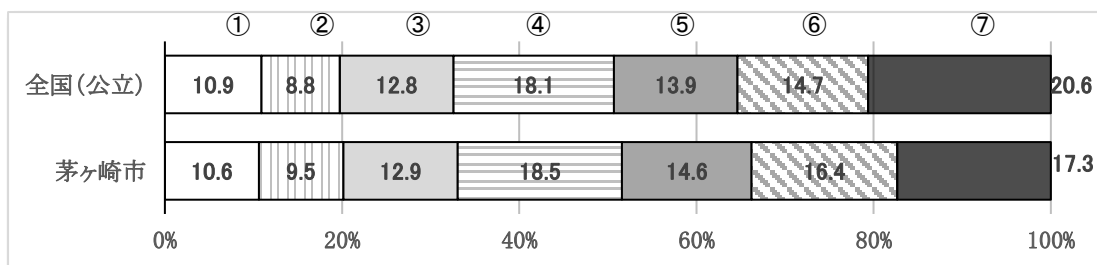


① 4時間以上 ② 3~4時間 ③ 2~3時間 ④ 1~2時間 ⑤ 1時間未満 ⑥ 全くしない

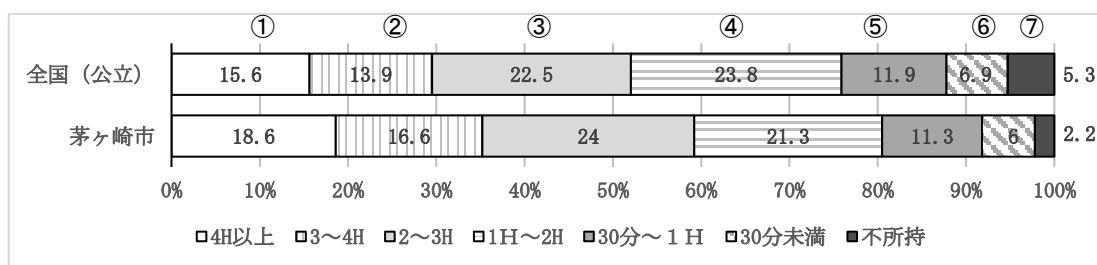
- ◆ 児童・生徒ともに、1日当たりのテレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をしている時間の割合は全国平均と同程度である。
- ◆ 児童・生徒の1時間以上の使用の割合を比較すると、児童の方が生徒より6.3ポイント高い。(小学校;76.7%、中学校;70.4%)。

(3) 【児童生徒質問紙】「普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか(携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームをする時間は除く)」

【小学校】



【中学校】



① 4時間以上 ② 3～4時間 ③ 2～3時間 ④ 1～2時間 ⑤ 30分～1時間 ⑥ 30分未満 ⑦ 不所持

◆ 児童は、1日当たりの携帯電話やスマートフォンでの SNS や動画視聴の時間が全国平均とほぼ同じだが、生徒は、2時間以上の使用の割合が59.2%(全国52%)と、7.2ポイント上回っている。

【本市における児童・生徒のSNS・動画視聴の時間と平均正答率との相関】

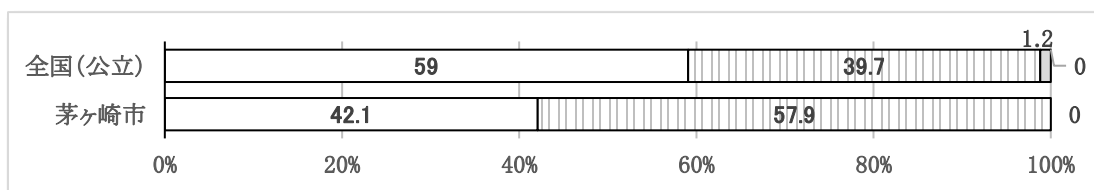
普段、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか。	児童数の割合(%)	平均正答率(%)			生徒数の割合(%)	平均正答率(%)		
		国語	算数	理科		国語	数学	理科
1 4時間以上	10.6	49.2	50.6	50.6	18.6	64.7	45.7	46.2
2 3～4時間	9.5	56.7	56.5	54.9	16.6	67.7	48.6	45.8
3 2～3時間	12.9	60.3	60.2	58.6	24.0	67.9	52.4	49.4
4 1～2時間	18.5	63.4	62.7	62.3	21.3	71.1	56.5	53.5
5 30分～1時間	14.6	64.5	64.7	65.3	11.3	74.9	62.9	57.2
6 30分未満	16.4	68.7	67.9	67.3	6.0	72.0	59.9	54.4
7 携帯電話やスマートフォンを持っていない	17.3	65.9	65.5	66.4	2.2	70.0	54.4	57.6

◆ 児童・生徒ともに、SNS・動画視聴の時間が短い方が、各教科の平均正答率が高い傾向が見られる。

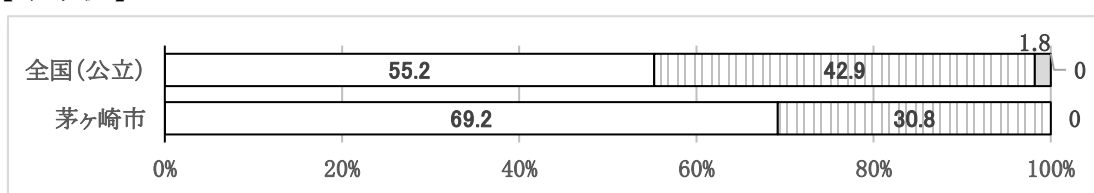


(2) 【学校質問紙】「調査対象の児童生徒に対して、前年度までに、学校生活の中で、児童生徒一人一人のよい点や可能性を見付け評価する(褒めるなど)取組をどの程度行いましたか」

【小学校】



【中学校】

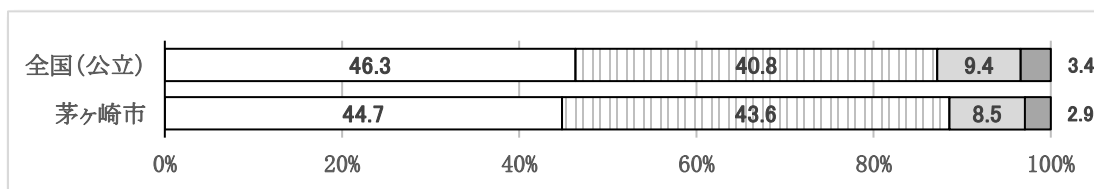


□よく行った □どちらかと言えば、行った □あまり行わなかった ■全く行わなかった

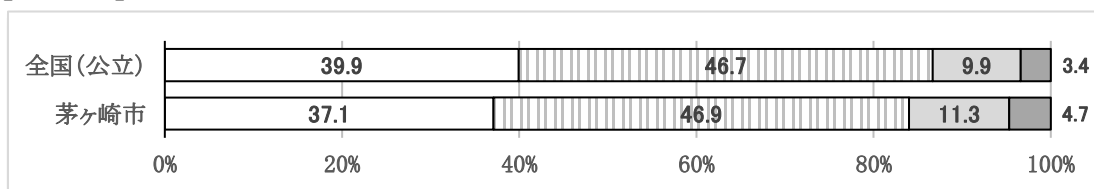
◆ 肯定的に回答した割合は、小学校・中学校ともに、10割となっている。

(3) 【児童生徒質問紙】「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」

【小学校】



【中学校】



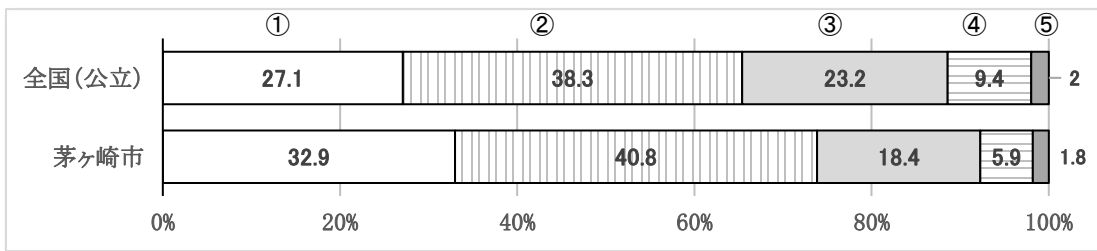
□当てはまる □どちらかと言えば当てはまる  
□どちらかと言えば当てはまらない □当てはまらない

- ◆ 肯定的に回答した割合は、児童・生徒ともに全国とほぼ同じである。
- ◆ 否定的な回答をした割合は、小学校で約10%、中学校では約15%である。
- ◆ 上記(2)の質問の回答と比較すると、児童・生徒と学校の認識の差が大きい。

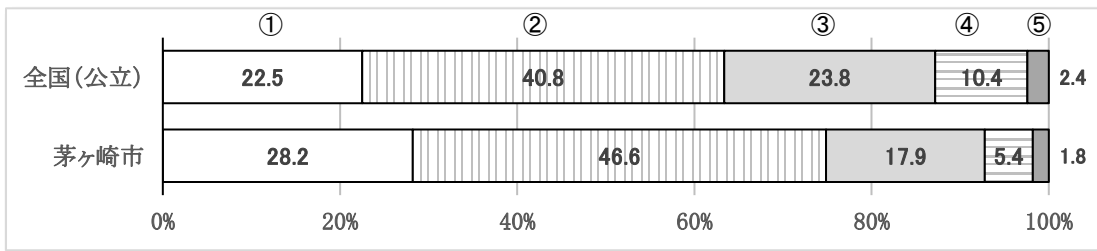
# 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

(1) 【児童生徒質問紙】「5年生[中学生は2年生]までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えが上手く伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表しましたか」

## 【小学校】



## 【中学校】



- ① 発表していた ② どちらかと言えば、発表していた ③ どちらかと言えば、発表していなかった  
④ 発表していなかった ⑤ 考えを発表する機会がなかった

◆ 肯定的な回答が、児童は73.7%(全国65.4%)と、全国平均を8.3ポイント上回り、生徒は74.8%(全国63.3%)と、全国平均を11.5ポイント上回っている。

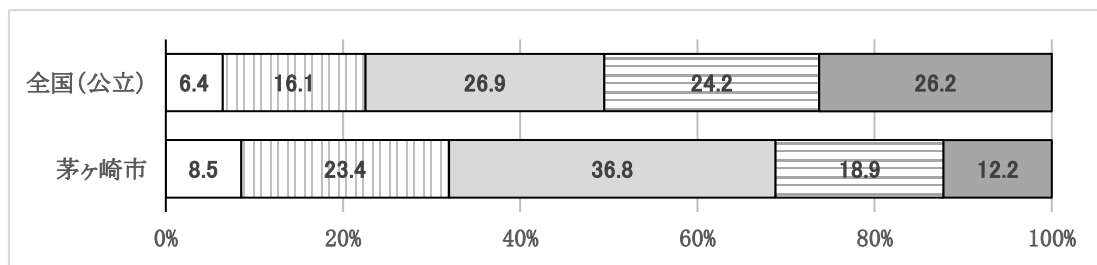
## 【本市における児童・生徒の発表の状況と平均正答率との相関】

5年生[中学生は2年生]までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えが上手く伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表しましたか	児童数の割合(%)	平均正答率(%)			生徒数の割合(%)	平均正答率(%)		
		国語	算数	理科		国語	数学	理科
1 発表していた	32.9	68.3	68.2	68.2	28.2	73.9	60.2	55.6
2 どちらかといえば、発表していた	40.8	62.7	62.7	61.9	46.7	70.6	54.3	51.9
3 どちらかといえば、発表していない	18.4	54.6	54.5	55.3	17.9	61.5	44.5	43.0
4 発表していなかった	5.9	53.2	52.7	50.5	5.3	58.3	39.7	38.7
5 考えを発表する機会がなかった	1.8	52.3	47.5	47.2	1.9	59.6	37.6	40.3

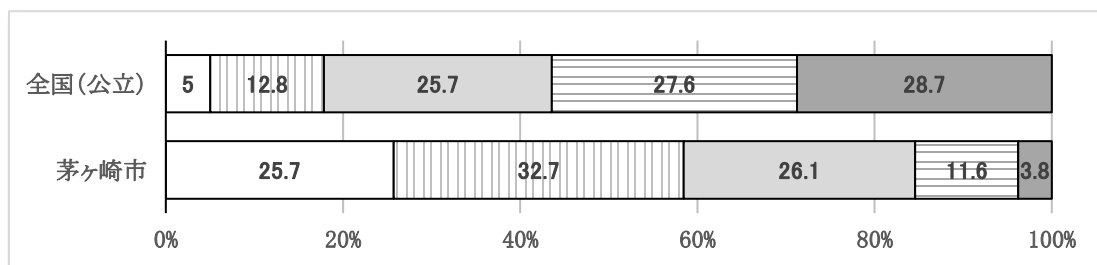
◆ 肯定的な回答をした児童・生徒の方が、各教科の平均正答率が高い傾向が見られる。

(2) 【児童生徒質問紙】「学校で、学級の生徒と意見を交換する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか」

【小学校】



【中学校】



□ ほぼ毎日 □ 週3回以上 □ 週1回以上 □ 月1回以上 ■ 月1回未満

- ◆ 週3回以上使用したとする回答が、児童は31.9%(全国22.5%)と、全国平均を9.4ポイント上回り、生徒は58.4%(全国17.8%)と、全国平均を40.6ポイント上回っている。

【本市における、児童・生徒が、学校で、学級の生徒と意見を交換する場面におけるICT機器の利用状況と平均正答率との相関】

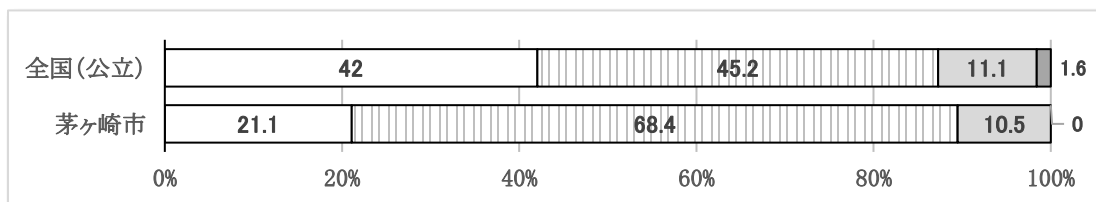
	学校で、学級の生徒と意見を交換する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか	児童数の割合(%)	平均正答率(%)			生徒数の割合(%)	平均正答率(%)		
			国語	算数	理科		国語	数学	理科
1	ほぼ毎日	8.5	63.3	63.2	61.6	25.6	70.3	55.2	51.2
2	週3回以上	23.4	63.0	62.8	61.7	32.6	69.6	54.2	51.4
3	週1回以上	36.8	63.3	63.0	63.2	26.2	69.2	52.3	50.6
4	月1回以上	18.9	63.3	63.4	62.9	11.6	66.9	49.9	47.9
5	月1回未満	12.2	56.0	55.7	56.6	3.9	61.3	44.4	43.4
6	その他/無回答	0.0	—	—	—	0.0	—	—	—

- ◆ 小学校では大きな相関関係は見られないが、中学校では、肯定的な回答をした生徒の方が、各教科の平均正答率が高い傾向がみられる。

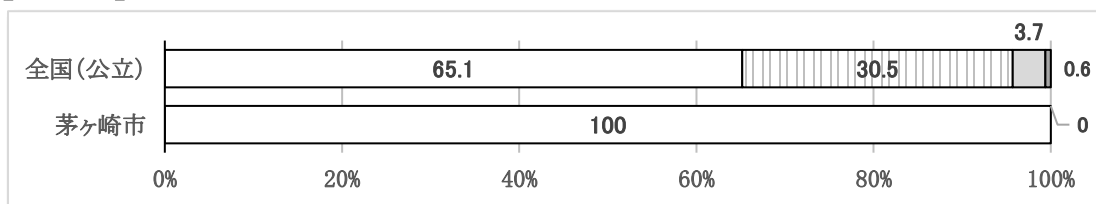


(3) 【学校質問紙】「調査対象学年の児童・生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか」

【小学校】



【中学校】



□そう思う □どちらかと言えばそう思う □どちらかと言えばそう思わない □そう思わない

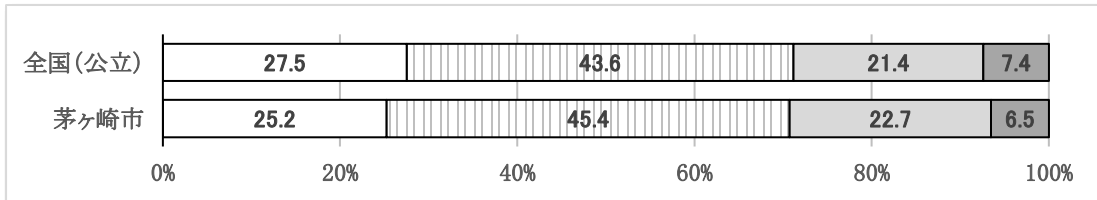
◆ 茅ヶ崎市の肯定的な回答が、小学校は89.5% (全国87.2%)、中学校は100%である。



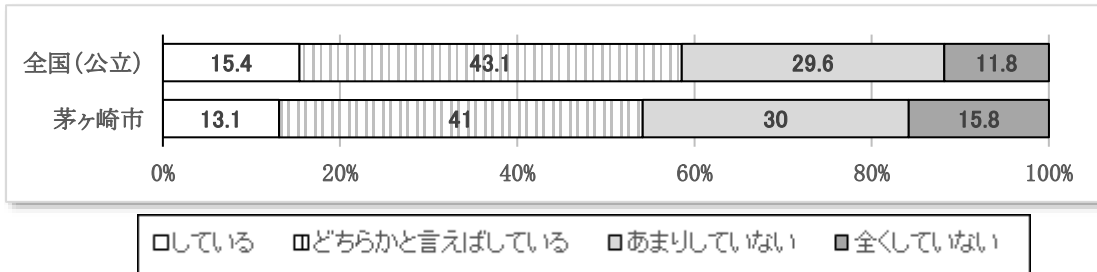
## 学習習慣等に関する状況

(1) 【児童生徒質問紙】「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか(学校の授業の予習や復習を含む)」

【小学校】



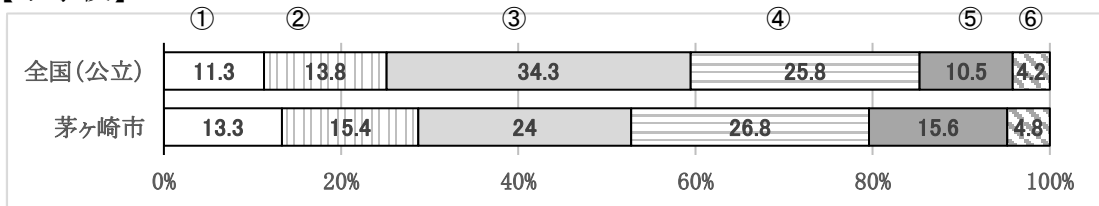
【中学校】



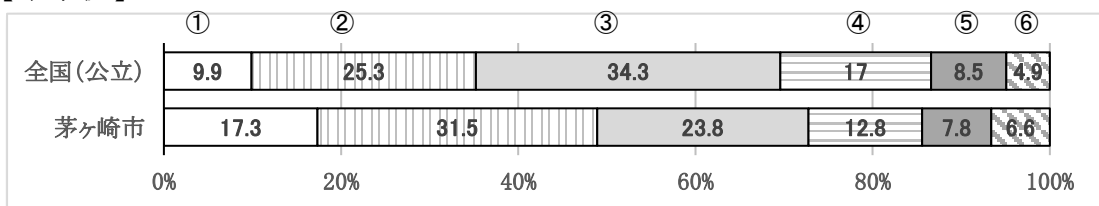
◆ 肯定的に回答した割合が、児童は70.6%(全国71.1%)で全国平均とほぼ同じだが、生徒は54.1%(全国58.5%)と、全国平均を4.4ポイント下回っている。

(2) 【児童生徒質問紙】「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)」

【小学校】



【中学校】



① 3時間以上   ② 2~3時間   ③ 1~2時間   ④ 30分~1時間   ⑤ 30分未満   ⑥ 全くしない

- ◆ 1日当たり30分以上勉強している割合が、児童は79.5%(全国85.2%)と、全国平均を5.7ポイント下回り、生徒は全国平均と同程度である。
- ◆ 「2時間以上勉強している」と回答した生徒は48.8%(全国35.2%)と、全国平均を13.6ポイント上回っている。

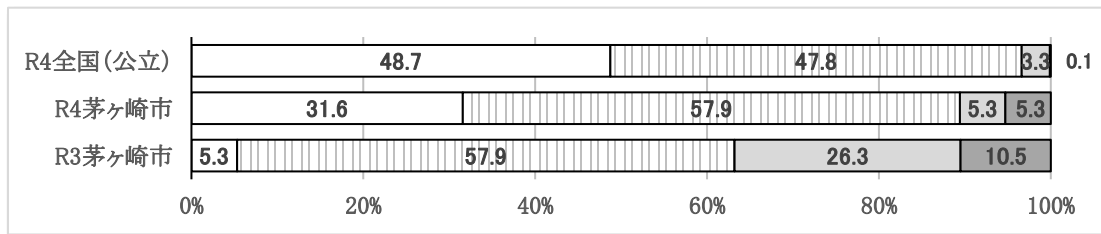
【本市における、学校の授業時間以外の学習時間と平均正答率との相関】

	学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか	児童数の割合(%)	平均正答率(%)			生徒数の割合(%)	平均正答率(%)		
			国語	算数	理科		国語	数学	理科
1	3時間以上	13.3	74.9	74.0	70.0	17.2	73.2	58.7	54.8
2	2時間以上、3時間未満	15.4	62.5	62.0	61.3	31.6	72.5	57.3	51.9
3	1時間以上、2時間未満	24.0	63.2	62.7	62.0	23.9	68.7	53.3	50.6
4	30分以上、1時間未満	26.8	60.2	60.3	61.6	12.9	65.2	47.5	47.9
5	30分未満	15.6	57.8	57.8	58.1	7.7	63.2	46.9	46.4
6	全くしない	4.8	48.6	50.6	53.3	6.6	57.0	35.8	41.6

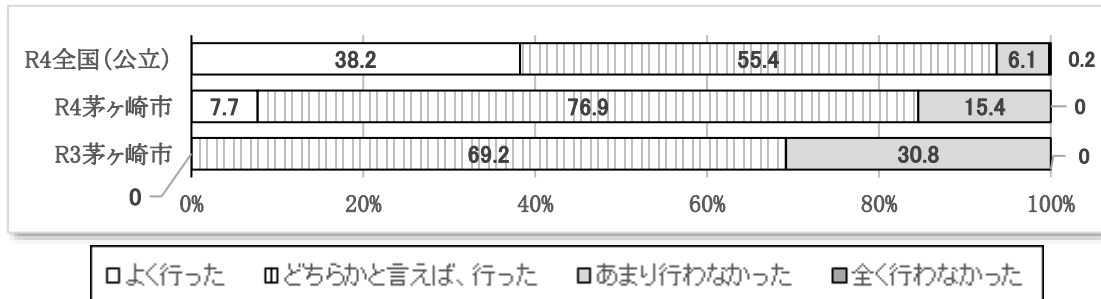
- ◆ 学習時間が長い児童・生徒の方が、各教科の平均正答率が高い傾向が見られる。

(3) 【学校質問紙】「調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、学校では、児童生徒に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えるようにしましたか」

【小学校】



【中学校】

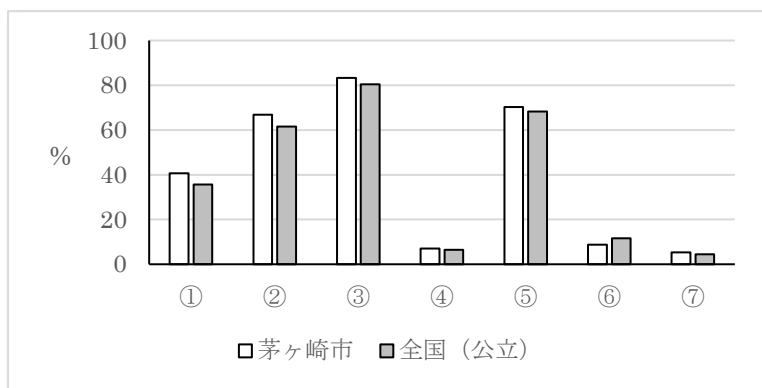


- ◆ 肯定的な回答が、小学校は89.5%(全国96.5%)と、全国平均を7ポイント下回り、中学校は84.6%(全国93.6%)と、全国平均を9ポイント下回っている。

- ◆ 小学校・中学校ともに肯定的な回答が昨年度より増え、全国平均に近づいている。

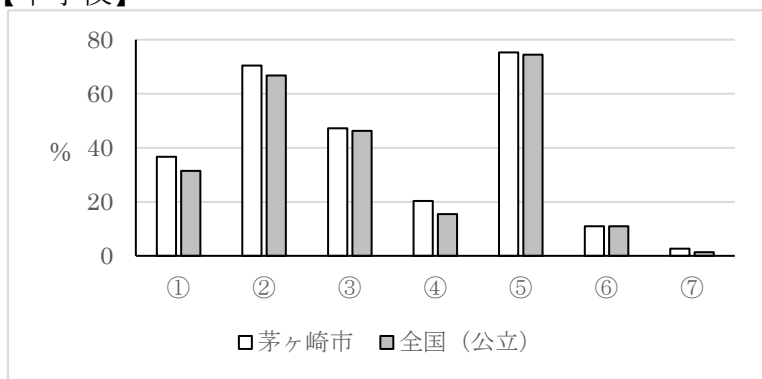
(4) 【児童生徒質問紙】「家で学校からの課題で分からないことがあったとき、どのようにしていましたか(複数選択)」

【小学校】



- ① 先生に聞く
- ② 友達に聞く
- ③ 家族に聞く
- ④ 上記①②③以外の人に聞く
- ⑤ 自分で調べる
- ⑥ 分からないからそのまましている
- ⑦ 分からないことがない

【中学校】



- ◆ 学校からの課題で分からないことがあったとき、児童は「家族に聞く」と回答する割合が最も高く(約8割)、生徒は「自分で調べる」と回答している割合が最も高い(約7割)。
- ◆ 昨年度と比較すると、児童は「先生に聞く」「友達に聞く」が増加した。「家族に聞く」はほぼ変化がない。生徒は「先生に聞く」「友達に聞く」「自分で調べる」が増加した。これは、令和3年度及び令和4年度において、学校の学級閉鎖等による臨時休業が少なかったことや、GIGAスクール構想により児童・生徒にタブレット端末を導入したことが影響したとも考えられる。

## 各家庭で取り組んでいただきたいこと

### (1) 基本的な生活習慣について

朝食をきちんと摂る、就寝・起床時刻を決めて、前日に学校の準備をするなど規則正しい生活を送ることが大切です。

また、スマートフォン等の普及に伴い、ゲームやSNS、動画視聴等、使用する時間が増加していることから、一定範囲内に収めるなどの生活習慣を身に付けていくことが必要です。

### (2) 自己肯定感について

自己肯定感は、物事に前向きに取り組むための土台となります。

子どもの苦手なことや得意なことについて理解を深めるとともに、子どもの学習等への取組について、よい結果のみを褒めるのではなく、上手くいかない際に、過程における取組の姿勢を褒めていくことが大切です。

### (3) 主体的・対話的で深い学びの視点に関すること

小・中学校ともに、知識・技能の領域における平均正答率が低いことから、学習した内容を日常的に活用する機会を設けることが大切です。

また、子どもたちが自分の考えを表現する活動を充実させる必要もあります。家庭では、学校で学習したことや、刻々と変化する社会情勢等を話題にするなど、意識的に子どもの考えを表現させる機会をもつことが大切です。

### (4) 規範意識に関すること

規範意識の醸成のためには、「公共の場で、どのようにふるまうことが適切であるか」、「社会の一員として、どのように責任ある行動をとることができるか」等、子どもが自らの価値観に問いかけながら行動していく経験の積み重ねが大切です。特に、大きな社会問題となっているいじめについては、家庭でも、相手の立場になって物事を考える大切さを話題にしていくことが必要です。

### (5) 学習習慣等に関すること

学校で学習したことを振り返る、または予習するなど、家庭学習に取り組むことで、より学習内容が身に付いていることが窺えます。自分で課題を設定し、計画を立て取り組めるような望ましい学習習慣が身に付くよう、家庭でも、子どもの取組を把握し、褒めるなどして子どもの家庭学習への意欲を高めていくことが大切です。

## 各小・中学校が取り組むこと

### (1) 基本的な生活習慣について

現代的な諸課題に関する教科等横断的な教育内容として、「心身の健康の保持増進に関する教育」、「食に関する教育」について、児童・生徒や学校、地域の実態及び児童・生徒の発達の段階を考慮し、各学校の特色を生かした教育課程の編成を図ることが必要です。(参照:小学校学習指導要領解説総則編 P.236～P.243、中学校学習指導要領解説総則編 P.232～P.239)

### (2) 自己肯定感について

自己肯定感は、学習への意欲を支える基盤となるものです。

本調査では、教職員が児童・生徒のよいところを認め、児童・生徒も自分自身によりよいところがあると感じていますが、児童・生徒のよい点を褒めていると認識している教職員と、自分のよいところを認めてもらっていると感じている児童・生徒の割合に1割程度の差異が見られます(P.27)。

「よいところを認めてくれている」ことについて、肯定的でない回答をした児童・生徒が、学校生活全般においてどのような戸惑いを感じているか等、児童・生徒の内面に目を向ける必要があります。

また、よい結果のみを褒めるのではなく、上手くいかない際に、過程における取組の姿勢を褒めていくことが大切です。

さらに、教職員は、誰もが粘り強く取り組んでいけるような授業を常に模索し続けるとともに、その中で粘り強く取り組む児童・生徒を積極的に褒めることが大切です。

### (3) 主体的・対話的で深い学びの視点に関すること

小・中学校ともに、知識・技能の領域における平均正答率が低いことから、学習した内容を日常的に活用する機会を設けることが大切です。また、各学校は、授業の中で、その子どもに備わっている「既有知識」とのつながり、「前時の内容」とのつながり、「協働して学ぶ友達」とのつながり、「教科等横断的視点にたった教科間」とのつながりなど、様々なつながりを意識する中で、児童・生徒が自分の考えを文章等で表現する活動を充実させ、その意義や目的を児童・生徒と共有する必要があります。

GIGAスクール構想において配備した1人1台タブレット端末の活用が進んできているところですが、「何のために使うのか」や「情報活用能力の育成」を意識した授業づくりを進めていくことが大切です。

### (4) 規範意識に関すること

学校の教育活動全般を通して、児童・生徒が互いに尊重し合い、協働してよりよい学級や学校をつくっていく上で、共通に求められるルールやマナーを学び、規範意識を身に付けていくことが重要です。そのためには、規律を守ることの必要性を児童・生

徒が主体的に考え、よりよく判断できる力を育むことが必要です。

学習規律について、実際に規律を意識し、落ち着いて授業を受けている児童は9割程度・生徒は10割となっています(P. 31)。引き続き、児童・生徒が学習規律を維持することの大切さを意識できるような指導に努めることが必要です。

また、いじめはどんな理由があってもいけないことについて、否定的な回答が5%程度あることから、学校は、引き続き、教育活動全般における道德教育の充実を図るとともに、体験的学習を通じて、児童・生徒のコミュニケーションスキルを高めていくなど、いじめの防止等に向けた取組の推進に努めていくことが必要です。

## (5) 学習習慣等に関すること

宿題は、学校での学習内容を定着させたり、今後の見通しを持たせたりするための家庭における大切な学習の機会です。各学校では、引き続き、児童・生徒の実態に応じた家庭学習の内容を精査するとともに、どのように取り組ませるかについて家庭と共通理解を図っていく必要があります。児童・生徒の実態に応じて宿題を出す際には、取り組ませ方、無理のない計画といった事前の指導に加え、事後の見取りと評価、励ましなど、児童・生徒の学習意欲を高めるための関わりが必要です。家庭と学校が連携して、子どもたちの学びを深めていく必要があります。

# 教育委員会として

## (1) 学校生活や学習への意欲を高めるために

教職員が、児童・生徒を深く理解し、よりよい関わりをすることにより、児童・生徒の自己肯定感が高まります。自分を肯定的に捉えることで、他の児童・生徒、学級や学校への肯定的な関心が高まっていくと考えます。このことは、今後、社会の一員として生きていく意識の芽生えとともに、規範意識の醸成につながるものと考えます。

教職員が、児童・生徒を深く理解するために、児童・生徒指導担当教員研究会をはじめ、人権教育研修会、道德教育研修講座等の研修の充実を図るとともに、学校訪問等の機会を通じて、学校における児童・生徒の学びの姿から、適宜、指導・助言等を行ってまいります。

## (2) 学びの質を高めるために

常に児童・生徒の学習状況を把握し、学びの質を高めるための授業改善に努めることが重要です。

教育委員会が所管する推薦研究や計画訪問、校内研究推進担当者連絡会等、様々な機会を通じて、本調査の結果の共有を図り、児童・生徒が抱える課題や教育活動に関する改善点について研究してまいります。

特に、児童・生徒の主体的・対話的で深い学びを保障するために、「分かる」、「でき

る」、「考える」といった流れのある学習指導を行えるよう、指導・助言の充実に努めてまいります。

また、令和3年度より、1人1台タブレット端末を配備し、教職員と児童・生徒や児童・生徒同士が考えを交流する双方向のコミュニケーションがとりやすくなるなど、これまで以上に学びの可能性は広がっています。児童・生徒のよりよい学びにつなげるため、教職員が活用方法を学び合ったり、ICTを活用した指導力の向上を図ったりする機会の充実に努めてまいります。

「令和4年度  
全国学力・学習状況調査結果及び分析について」

発行日 令和4年12月24日

発行 茅ヶ崎市教育委員会教育推進部学校教育指導課